



歌川広重 「東都名所 吉原仲の町桜図」 より構成

△2025 年度前期講座が始まりました 第34 回開講式一桜のなかで4月9日（水）開催！！



第一部の開講式では、馬場学長から、これまで前提としてきた世界の仕組み、枠組み、が壊れつつあること、今年は昭和 100 年であり、歴史を振り返って読み取ることは重要であること、アカデミーでやっている講座・WS は、専門家が自分の知をかたむけ、一方的にしゃべるのではなく、受講生と対話することを真剣に考えていること、そして巷では数限りない学びの機会の場はあるだろうが、アカデミーの対話の精神は際立っていることを念頭に置いておいて欲しいことを、お話されました。



太田理事長は、戦後 80 年が経ち、語り部として東京大空襲の体験を話されました。米国の新政権の諸施策、世界で起きている戦争・紛争など、民主主義が変わりつつある中で、アカデミーで学ぶことに大きな意義があること、シニアが中心ではあるが、若い人も含めて、川崎市、生涯学習財団からの応援を頂きながら、こういう組織を持っていて、受講生が担っていくことに大きな意味があることなど、お話されました。



藤嶋昭名誉理事長は、受講生の熱心さ、素晴らしい講師陣と講座内容など、日本一の市民大学であると思うことを話されました。続けて五木寛之の著作より、人生 100 年を山登りにたとえれば 50 歳までは頂上をめざして登り続けるが、夢中になって登るので周囲が見えない。50 歳から降りてくるときは、見えなかったことが良く見える。降りることを楽しみながら人生を過ごして頂きたい、そして『玉、磨かざれば器をなさず』、『人、学ばざれば道を知らず』を引用され、アカデミーは学んで磨く場、素晴らしい講義を聞いて、さらに素晴らしい人間となり活躍して欲しい、と結ばれました。



加藤順一副市長は、アカデミーは長年にわたり市民に生涯学習の機会を提供し、受講生が運営に関わっている全国的にも例を見ない市民大学であり、川崎市としても大きな誇りに思っていると述べられました。川崎市は昨年市制 100 周年を迎え様々な事業を展開。次の 100 年にどう続けていくかが大きなテーマであり、生涯学習の分野においても、誰もが気軽に生涯学習に参加できる環境作りに取り組んでいきたい、とお話されました。

(芦澤 康夫)

記念講演・望月一樹先生 (神奈川県立歴史博物館館長)

「天の時 地の利 人の和 一池上幸豊の新田開発一」



池上幸豊、川崎の歴史を語る上では欠かせない人物です。江戸時代中期以降、東京湾沿岸には、幕府の命を受けて多くの新田が造成されました。しかし明治末以降、大半が工場用地となり、現在、新田開発ゆかりの地名として残っているのは池上幸豊に由来する池上町と池上新町のみです。

昨年、市制 100 年を迎えた川崎市において、さらに 150 年遡った江戸時代中期、「土地を知りその摂理を知ることが重要。そして、土地に熟知した人を用い、また、開発に当たり人心を一つにすることが重要である。」を信念に、川崎の産業発展に寄与した先人として、池上幸豊の新田開発にける思いについて解説があり、とても興味深い内容でした。

(清水 正美)

●運営代表世話人会議が開催されました (2月19日)

2月19日、各講座・ワークショップの代表世話人、NPO 役員、事務局職員など総勢 42 名が参集し、2024 年度後期の運営代表世話人会議が開催されました。



運営代表世話人会議の様子

第1部では、NPO から、経営概況と昨年末に実施した「受講生アンケート」の結果についての報告がなされました。経営概況については、まず、持続可能なアカデミーの経営を進めていく上で、①財政健全化目標の設定、②事業構造の見直し、③広報力の強化、という3つの柱を立てて諸施策を企画し進めているとし、その細目についての説明が行われました。その後2024年度収支の見通しについて、期初の受講料改定効果や日本史等の特別講座の盛況や単回講座の本格化が寄与し、前期比大幅な収入増となる見込みであること、また支出面においては職員体制の見直しが人件費増を抑制し、一般経費の増加もあるものの、最終収支は改善し3百万円近くの黒字が見込める(前期は7百万円を超える赤字)との報告がありました。その後、受講生アンケートの結果について説明がありました(次項ご参照)。

第2部では、①世話人制度について、②講座・ワークショップ別収支試算を踏まえた「講座・ワークショップの在り方」について、③受講生確保に向けた活動について、の3点について出席者全員によるフリートーキングを行い、活発な意見交換の場となりました。

●2024 年度受講生アンケート結果

823 件の回答(回収率約 50%)がありました。約 7 割の方が川崎市内にお住まい、市外の方の約半数は横浜市に在住。受講講座数は約半数の方が一つのみ。アカデミーを知ったのは「知人からの紹介」が約 1/4、新聞折込と募集案内がそれぞれ2割。8割の方が「12 回で 1 講座」という標準型を「適当である」と回答され、我がアカデミーの大きな特徴(じっくりしっかり学ぶ)が受け入れられているものと思われます。講座内容のレベルについては9割の方が「適当」とお考えになっておられ、6割の方はワークショップを受講したことがない、と回答されました。一方通行の「知識の伝達」ではない、双方向のあるいはマルチなやり取りが齎す活きた知見を得るワークショップをぜひ一度経験頂きたいと思います。8割を超える方が「運営世話人制度」は知っているという回答され、条件が合えばという方を含めて協力の意思をお持ちの方は4割となりました。自由記述の回答では、現在の「会員制度」について「わかりにくい」「会員であることの意味が分からない」というご指摘が目立ちました。そもそも創設時の「学生と聴講生」という関係に端を発する区分(学生を「会員」と呼んだ)が今に続いているのですが、その後聴講生にも単位取得と修了を認めると制度変更したことがその後の混乱を招いたと言え、修了制度を廃止とした今、区分の見直しに着手しています。

(NPO 事業推進部会)

認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー
“総会” 開催のお知らせ
開催日時：5月27日(火)
14:00～生涯学習プラザ 301

NPO の活動の充実と発展には、多くの皆さまのご協力とご理解が必要です。是非、NPO 正会員にご加入いただき、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

問合せと NPO 正会員申込先 ☎044-733-5590

望月一樹先生が 4/1 付けで副学長に就任 されました。



望月先生は神奈川県立歴史博物館の館長で、これまでもかわさき市民アカデミーの歴史(川崎学)などで多くの講義を担当されました。今後、田中宣一先生の後任として川崎学のコーディネーター/カリキュラム企画・編成委員を務められます。

世話人グループ紹介 みどり学Ⅰ

みどり学Ⅰのカリキュラムを編成しているのが石井誠治先生で、座学と野外の組合せとなっています。25 年度前期は 83 名の受講生で講座の運営サポートしているのが 12 名の世話人です。野外では安全面の配慮もあり、受講生を A/B の 2 班にわけ、世話人も同様に 2 班体制での運営となっています。この野外学習を安全に楽しく受講できる様下見する事が大事です。目的地への交通手段・目的地内の歩行ルートの注意・配慮すべきポイント、雨天時などの場合の対応等と、細かな点を



を含めての下見となります。その結果をもとに、当日の運営支援を行っています。そんな世話人に対し、受講生から

お礼や感謝の言葉を戴いた時、それまでの苦労も忘れます。世話人は、それぞれの社会人生を過ごしてきた人々の集まりですが、より良い講座となるよう意識を持った集まりでもあります。そんな世話人という立場から、幅広いコミュニケーションがとれる事で自らを高める一つの要素にもなっています。それは、先生や世話人同士・受講生、更には事務局・NPO 等と、新たな出会い、そして繋がり・触れ合いでもあります。このなかで先生とは、より良い講座となるよう、学期末など適時に話し合いの場を設けています。

（菅沼 俱万）

世話人グループ紹介 経済 WS

25 年度前期は 28 名参加の下、「国際収支から見た日本経済」を勉強しています。物価上昇の一因である円安と経常収支の関係や、トランプ関税の元となった貿易赤字の意味など、貿易を切り口に日本経済について議論しています。これらテーマの選定は、受講生からのアンケートも参考に金子先生と 10 名の世話人で検討し、テキスト



探しも並行して行いながら進めており、前回はコメの高騰が問題となっている「農業」、前々回は 103 万円の壁が問題となった「税金」を取り上げるなど、半年前に選定しながらも何故かピッタリ時宜にあったテーマとなっています。WSの進め方はテキストを 10 チームで分担し合って深掘りし、論点を提起して意見を述べ合います。



また、授業の後には、毎回 10 名程度でアルコールを入れながら補習授業も行っています。こんな経済 WS ですが、もしご興味があれば見学

歓迎します。（経済 WS 代表世話人：中村治樹）

講座・ワークショップ



講座・ワークショップの運営に参加しませんか！

- ・準備（マイク、機器、資料印刷など）と片付け
- ・当日のオンライン操作（オンライン併用講座）
- ・野外講座会場の下見と講座中の安全確認
- ・担当講師との連絡や講座当日の進行
- ・コーディネーターとの打ち合わせや企画参加 など

講座やワークショップの運営は、受講生皆の力で支えられています。

皆さまからのご寄附に感謝申し上げます

昨年度、個人、団体の皆さまから 3,123,730 円のご寄附をいただきました。格別のご協力に心から御礼申し上げます。いただきました寄附金は、講座充実のための機器等の購入、アカデミーの運営などに活用させていただきました。今後も厳しい財務状況が見込まれるなか、皆さまには引き続きご支援を賜りたく何卒よろしくお願い申し上げます。



謎かけ講座《第 2 弾》 答は 4 面のどこかに

★市民アカデミー運営にとって大切なこと とかけまして、
接着剤の機能として求められるものととく。

そのころは、
どちらも「・・・」でしょう。



★ NPO の事務所がある地域の略称 とかけまして、

焼酎 9、水 1 の水割り
ととく。 そのころは、
どちらも「・・・」でしょう。



★アカデミー 4 月になりました
とかけまして、

労働者としては やられたら
たまりませんととく。

そのころは、
どちらも「・・・」でしょう。

葉倉 前事務局長 退任のご挨拶

2019 年 4 月、藤嶋昭理事長のもと、かわさき市民アカデミー事務局長となり、6 年間務めさせていただきました。事務局はアカデミーの下支えの仕事ですが、受講生の方々にはいつも、温かく声をかけていただいたことがとても嬉しく思い出されます。緊急事態宣言下での NPO 総会の開催、コロナ感染拡大する中での感染防止対策、ゼロから模索しながらのオンライン講座の立ち上げ、開学 30 周年記念式典開催準備、2 回の認定 NPO 更新申請、有能な事務局職員に助けられながらここまでくることができました。

お世話になりました。 葉倉 朋子



2025 年 4 月から、副理事長の中澤晶人さんが事務局長代行を務められます。

**2025 年度前期単回受講講座のご案内**

23 後期に試行した「単回受講制度」ですが、24 後期は、同一講座の受講回数制限の撤廃や申込締切りを全講座一律ではなく各実施回の 1 週間前までとするなど受講条件を緩和し、対象講座も拡大して実施しました。その結果、対象講座（日程）数は 96 回（23 後期 62 回）、受講申込者数延べ 369 人（同 214 人）、受講者数延べ 317 人（同 186 人）と、アカデミーを受講されていない方 38 名を含み、多くの方に受講して頂きました。

受講者アンケートには、「日程の関係で 12 回全ての受講が困難な場合もあり、大変有難い」とか「仕事があるのでアカデミーには興味があっても参加できなかったが単回であれば受講できるので是非続けてほしい」といったご意見が多く寄せられました。毎年、前期期初は業務繁忙のため昨年度前期は実施を見送りしましたが、2 期の経験から事務手続も円滑に進むこととなったことから、今年度から前期も実施いたします。詳細はパンフレットをご覧ください、ご受講をご検討ください。お申込みは 4/21(月) 13 時からです。アカデミー受講は初めてとなるご友人などへのご紹介も積極的に行って頂けるようお願いいたします。（事業推進部会）

編集後記

朝日の書評に川本三郎著「陽だまりの昭和」が載っていました、評者は御厨貴先生。

あのころは「右のポケットに夢がある」の時代、今は「左のポケットにスマートフォン」、1 ドル 360 円のままなら 36 万円はしたであろう iPhone などを老いも若きも持ち歩いています。選べるとすればどちらの時代？

世の中は変えて欲しいと思ってなくても、半導体は進化し、インターネットや AI が当たり前になりどんどん変わって行きます。これからの変化にも何とかついていけますように。今学期もよろしくお願いします。（K.H）

認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー

発行人 広報・地域連携部会

編集人 かわら版編集委員会

川崎市中原区今井南町 28-41

川崎市生涯学習プラザ 3F

電話 044-733-5590

FAX 044-722-5761

問合せメールアドレス

info@kawasaki-c-academy.jp

ホームページ

https://kawasaki-c-academy.jp

HP はこちら↓

